

1. 補助系統の概要(△)

系統名	運営主体	運行事業者	区間	キロ程	運行回数	関係市町村
星ヶ丘・豊田	名鉄バス(株)	名鉄バス(株)	赤池駅～御岳～イオン三好店アイモール前	10.0 km	6.5 回	日進市 みよし市 東郷町 0
細 系 統				km	回	
				km	回	
				km	回	
				km	回	

※「細系統」には、補助上同一系統とみなされている系統について、系統ごとの情報を記載(系統名、区間は他の系統と違いが分かるよう記載)

接続の状況(△□)

<接続する系統>

名鉄豊田線、市営地下鉄
名鉄バス 日進中央線、東郷町じゅんかい君(北コース)

<接続される系統>

東郷町じゅんかい君(東コース)、みよし市さんさんバス(いいじゃんライン、さつきライン、くろまつライン)、日進市くるりんばす(梅森、赤池線)

模式図(△□)

2. R7年度の運行状況

事業実施の適切性		《参考数値》 主要指標の推移(△)						
計画どおり運行されたか(△)		評価の基準<事業実施の適切性> A: 事業計画どおりの運行回数が確保されている場合 B: 車両故障等運行事業者の責にすべき事由により、運休(一部区間の運休を含む)が生じた場合						
評価	計画どおりか。そうでない場合は理由							
A	計画どおり	評価の基準<目標・効果達成状況> A: 年間目標利用者数を達成できた場合 B1: 年間目標利用者数は達成できなかったものの、目標の75%以上の利用があった場合 B2: 年間目標利用者数は達成できなかったものの、目標の50%以上の利用があった場合 C: 年間利用者数が目標の半数に満たなかった場合						
		年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	
	年間利用者数【人】	22,102	33,944	38,412	34,967	43,966		
	平均乗車密度(実績)	1.5	2.6	3.0	2.6	3.5		
		輸送量	(計画)	19.5	18.8	26.0	16.9	16.9
			(実績)	9.7	16.9	19.5	16.9	22.7
		収支率(実績)	23.95	36.61	40.96	36.96	45.00	

目標・効果達成状況		
評価	目標の達成状況(△)	運営主体の所見、理由分析、認識(△)
A	目標	34,963
	実績	43,966
	達成率	125.8%
	要因	定期外の利用者数が増加したため。
市町村の所見、理由分析、認識(□)		
市町村名: 日進市		市町村名: みよし市
バス会社年度令和4年度以降、新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行に伴う移動需要の回復により順調に利用者が回復していたが、需要が頭打ちの状態となっている。新規利用に繋がる周知、利用促進策を行う必要がある。		利用者数は目標を達成しており、コロナ前の水準に戻りつつあるように見受けられる。本市においても赤池駅とイオン三好ショッピングセンターを結ぶ重要路線であるため、引き続き利用促進等に力を入れる必要がある。
市町村名: 東郷町		市町村名: 0
赤池駅とイオン三好店を結ぶ本町の北部地域の住民の交通需要を満たすための重要な路線である。利用者数の増加は、新型コロナウイルス感染症の行動制限解除に伴う移動需要の回復及び町内全地区への路線チャリタの回覧や各種イベントでの啓発活動の影響と考える。新たな利用者発掘のため引き続き利用促進、周知啓発を継続して行う必要がある。		
運行事業者の所見等(△)		
運営主体と運行事業者は同じ		

複数市町村を跨ぐ系統としての役割				
指標(市町村を跨いでの利用)	利用状況及び所見(△)	住民の利用状況(□)		
市町村を跨ぐ利用者数(△)	3,720 人/月	市町村名: 日進市	市町村名: みよし市	市町村名: 東郷町
全利用者に占める率(△)	84.9 %	市町村名: 0		
特記事項	令和7年5月の乗降調査より算出	市町村名: 日進市	市町村名: みよし市	市町村名: 東郷町
	市町域を跨ぐ内訳は、通勤4.8%、通学0.0%、ゴールド・シルバースを利用する高齢者6.5%、現金、ICSFの定期外88.7%。路線自体の利用者数は増加し、市町村を跨ぐ利用者も増加している。	市町村名: 日進市	市町村名: みよし市	市町村名: 東郷町
		市町村名: 0		

《参考数値・情報》 その他、運行改善や利用促進に参考となる数値・情報	
運営主体(断面輸送量、競合系統合算断面輸送量、主な停留所乗降者数等)(△)	沿線市町村《沿線の状況等、すべての沿線市町村一括記載》(□)
主要停留所利用者数/日: 赤池駅119人、箕ノ手北4人、高嶺小学校前11人、諸輪公民館前41人、イオン三好店アイモール前24人	

3. R7年度の取組状況

直近の事業評価結果(△)		運営主体の取組(△)	市町村の取組(□)			
A	事業評価を踏まえた取組	HP、CentXなどのスマートフォンでの時刻検索システム、バスロケーションシステムの提供や、コンテンツプロバイダへのデータ提供を行い、利用促進を図った。	市町村名：日進市	市町村名：みよし市	市町村名：東郷町	市町村名：0
改善点とした事項(△)			・時刻表を市役所窓口等で配布した。 ・近隣市町が実施した本路線の利用促進イベントについて市広報で周知を実施した。	起終点であるイオン三好ショッピングセンターにおいて、沿線市町と交通事業者が連携した利用促進イベントを実施した。引き続き、市のバスマップにも当該路線の情報を記載した。	・イオン三好店、関係自治体と連携した利用促進イベントを実施した。 ・町内全地区に本路線の時刻表、路線図等記載のチラシを回覧し、周知を図った。	
関係者の連携等(△□)	その他の取組			みよし市地域公共交通会議を開催した。		
公共交通会議等の開催。						

4. 今後の課題

課題と認識している事項					
運営主体(△)		沿線市町村(□)			
運転士不足による現状のダイヤ便数の確保を維持するためにも従業員の処遇改善をはかる必要がある。また、現状のサービスを維持しつつ、利便性向上に努めるとともに、沿線市と一体となり利用者増加のため、新たな利用者発掘を目的とした利用促進策を実施する必要がある。	市町村名：日進市	市町村名：みよし市	市町村名：東郷町	市町村名：0	
	赤池駅、東郷町の大型商業施設開業により、移動需要に変化が生じている可能性がある。	近隣市町の商業施設等の影響による移動需要の変化に注視する必要がある。	鉄道駅が存在しない本町にとって、住民の生活に必要な路線であるため、減便等サービス水準を低下させないための新たな利用者発掘を含めた、利用促進を継続実施する必要がある。		
運行事業者(△)					
運営主体と運行事業者は同じ					

5. 今後の取組

課題に対応した取組、その他の利便性の向上、利用促進の取組					
取組時期	運営主体の取組(△)	市町村の取組(□)			
R6年度、R7年度に行う取組	継続してHP、スマートフォンでの路線・時刻検索、バスロケーションシステムの情報提供、コンテンツプロバイダへのデータ提供を行う。また高齢者用定期券ゴールド・シルバーパスのPRを積極的に実施し、昼間帯の利用促進を図る。	市町村名：日進市	市町村名：みよし市	市町村名：東郷町	市町村名：0
		赤池駅、東郷町の大型商業施設開業後の利用状況等について、沿線市町と情報共有を行う。市HP、広報等を用い、本路線のPRを行い、公共交通利用促進に努める。	商業施設等において、近隣市町と交通事業者が連携した利用促進イベントを実施するとともに、引き続きイオン三好ショッピングセンター内にバスマップを設置する。	継続して商業施設や近隣市と連携してバス利用促進イベントや周知啓発を実施する。また、庁舎内及び公民館等の町施設に路線案内チラシを配架し、周知を図る。	

注. 評価にB、Cがある系統(市町村にあつては、目標の達成状況に関しての評価がB、C)、又は平均乗車密度が3.0を下回る系統については、具体的な取組内容と収支率の目標値を記載すること。

6. 地域公共交通計画(地域公共交通網形成計画)に記載した補助系統の目標と評価

	沿線市町村(□)			
目標	市町村名：日進市	市町村名：みよし市	市町村名：東郷町	市町村名：0
	市内公共交通利用者数の総計での目標設定となっており、本系統の個別目標の設定はしていない。	市内における名鉄バスの年間利用者数は目標設定しているものの、当該系統の個別目標は設定していない。	本路線を含む路線全体で令和元年度利用者数の維持(約214万人)	
自己評価			令和5年度(2,084,347人)と比較して横ばい。じゅんかい君及びデマンドタクシーに関しては約10%増と、啓発及び利用促進活動の効果が現れて	

7. 補助系統に接続するフィーダー系統の利用・接続状況

沿線市町村(□)			
市町村名：日進市	市町村名：みよし市	市町村名：東郷町	市町村名：0
名古屋市内地下鉄鶴舞線赤池駅でぐるりんばす赤池線、梅森線と接続している。			

通信欄	(この欄は関係者間で付記したいことや特記事項がある場合に利用する。県バス対策協議会事務局からの依頼事項についても記載する。)
※マクロを用いて集計しますので、セルの結合は絶対に変えないでください	